第１回３月１１日知事メッセージ起草委員会　主な意見

日　時　令和元年１２月２７日（金）１３：００～１４：００
場　所　総務委員会室（本庁舎３階）
出席者　委員長：知事
委　員：小野広司、鞍田炎、佐々木孝司、蜂須賀禮子、本多環、横田純子（50 音順）
事務局　企画調整部　佐竹部長
企画調整課　髙橋課長、佐藤主幹、渡邉主任主査、佐藤主査、佐藤主事、堀切主事

１　全体的な趣旨等について

・今までは思い悩みという部分にも十分に配慮したところはあったにせよ、2020 年はここである程度強く今の福島を全国や海外に向けて発信すべきタイミング。
・福島に来た海外、国内の方に刺さるような内容を強く出していい年だということを意識したものにしたい。
・令和の「和」、チームワークやワンチームの「和」、五輪の「輪」を用いて、困った人がいたら誰かが手をさしのべるようなイメージを入れてはどうか。
・物事にはポジティブ・ネガティブ両方あるが、「再」という文字をポジティブに捉えること、福島にとってもとても大事な言葉。
・震災当時まだ生まれていなかった子ども達が 9 歳、10 歳となってきて、改めて風化への懸念ということも考えていく必要がある。伝え方や伝え先をどうしていくかということも来年は考える年。
・トルコギキョウの花言葉「感謝」と「希望」を福島から発信したい。
・知事が持っている福島の理想の姿。あるべき福島の姿をメッセージとして発信してほしい。
・本当の影は人々の心の中にあり、その影は当事者しか知らないもの。県民は自分の隣のひとりひとりにそうした見えない影があることを忘れず、互いに思いやり、いつでも語れるときに語れることを続けたい。
・子どもの生きる環境が変わると影響を残してしまう、日常生活が重要であることなど、福島は東日本大震災で様々なことを学んだからこそ、いろいろなことを発信していかなければならない。

２　構成について

・今のメッセージのスタイル（様々な人々の声、前向きな部分、現状などが入っている）は、内堀知事の人柄を表しており好ましい。

３　これまでの振り返り等について

・福島県は、今年台風災害によって二重三重の苦労をしているが、だからこそつらい思いをしている人の気持ちがよく分かる。自分に何ができるのだろうと考えて

スイッチを変えて行動に移していくことは大事。

４　復興の現状等について

・福島が復興・創生のスタートラインに立ったと呼びかけていくのが非常に大事。
・復興は終わっていないし、復旧もまだまだのところがたくさんある。一方で希望を持って努力すれば形になる。
・世の中の人、日本中が「福島は元に戻っている」というように思っている。あまりにも光の部分の発信が多いと、そうでないところにとっては厳しい。
・復興の最終目標は「希望」。希望は人から与えられるものではなく、自分で創っていく、自分でつかみ取るもの。希望や夢や目標をつかんだら、それに向かって挑戦を続けることで希望が形になる。
・本当の復興は、福島というのは、なんとなくいろいろ皆がやっている。自分の意志で動いているという県になること。
・ひとりひとりの心の中で「安心」と「復興」を感じることができて初めて福島県の復興になる。

５　今後の方向性等について

・福島が強くたくましく、魅力的で格好いい、海外からも一目置かれたような存在を目指した地域づくりに突き進んでいくという方向性。

６　呼びかけ等について

・県民ひとりひとりが自分の言葉なり自分の行動で「今の姿」「元気な福島」「課題を抱えた福島」を発信すべきであり、知事から呼びかけることでどうか。
・被災地は、帰還が進まない、人口減少、風評被害といった課題がある。心に負荷を抱えている被災者の方々に常に寄り添っているといった趣旨のことを、心に訴えかけるような文章で入れ込んではどうか。
・令和の意味とともにひとりひとりがそれぞれの大きな花を咲かせていけるようなコメントを出してはどうか。
・福島県が東日本大震災を受けて強くなったところ、しなやかさを身につけたところを強調（確認）し、だからこそ福島に戻っても大丈夫である、本当のふるさとがここにはあるということを発信してはどうか。
・ありのままで良い、悩むところも人間なんだということを素直に発信してはどうか。
・外からの応援。皆が心配してくれているよというようなものを入れれば非常に心強くなり、過去を思い出すのではなく明るくなってくれるのではないか。
・今困っている人にも「こういうビジョンに向かってやっていきませんか」というような呼びかけをしてほしい。
・震災のことを覚えていない子どもたちが大人になる。その方々にも伝わるように言葉の拾い方を変えることも必要かもしれない。
・皆がチャレンジしようと思うのは難しい。そのためにも現役世代である我々自身が何か一生懸命、前に向かって努力しているという後ろ姿を子どもたちや孫たち

に見せることで、「自分のやりたいことに一生懸命進んで良いのだな」と思ってもらえる、そのようなふるさとにしたいという思いを入れてはどうか。

７　発信方法等について

・(今日の議論を踏まえれば) 次のステップの宣言に近いようなもの (キーワード) を発出できるのではないか。
・オリンピックの年であり、国内外からの注目が集まる。このタイミングを逃す手はない。国内外から来てくれた方にも伝わるような発信を。